

学年	教科等	単元名	児童	場所	指導者
1年	国語科	「本はともだち～ずうっと、ず っと、大すきだよ～」	1年1組23名	1年1組 教室	北村 聡

育てたい資質・能力

◎国語科において育成を目指す資質・能力から本時にかかわる主な資質・能力

言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力（思考力・判断力・表現力等）

〈本時にかかわる主な資質・能力〉

言葉によって感じたり想像したりする力、また自分の感想や想像した内容を言葉でわかりやすく伝える力

1 単元について**(1)単元の目標と評価規準****【単元の目標】**

- ◎登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、物語の中の心に残ったところについて、経験などを結び付けて思いや考えをまとめ、本の紹介をすることができる。
- 本の紹介を交流し合うことを通して、いろいろなものの見方や考え方に触れ、自分の読みを広げることができる。

本単元は、学習指導要領「第1学年及び第2学年」の内容

「C読むこと」の指導事項「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を中心に、「オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」

を受けて設定したものである。

本単元では、中心となる登場人物の様子を豊かに想像しながら読み、文章の内容や構成、を自分が既に持っている知識・経験・読書体験などと結び付けて解釈し、想像を広げたり深めたりする。更に、読んだ本の「一番大好き」なところを言葉や文で紹介する交流活動を通して、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりして、主体的・対話的で深い学びができ、読みの世界が広がっていくと考える。

また「作品を読んで、一番大好きなところを、『えほんルーム』にまとめて紹介する。」という言語活動を位置付け、『えほんルーム』に、紹介したい絵本の「題名」「作者名」「学年と名前」「主な登場人物」「一番大好きなところ(言葉や文)とその理由(自分と比べて)」をまとめる力を身に付けさせる。

【評価規準】

【国語への 関心・意欲・態度】	【読む能力】	【言語についての 知識・理解・技能】
<ul style="list-style-type: none"> ・本を紹介し合うことに興味を持ち、読みたい本を進んで選ぼうとしている。 ・いろいろな物語を楽しんで読み、心に残ったところを見つけて紹介しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本を紹介するために、物語の展開に沿って登場人物の行動を捉え、心に残った一番大好きな場面を見付けながら、想像を広げて読んでいる。 ・物語の一番好きなところを、読んだ内容と知識や経験、自分と比べながら言葉や文でまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心に残ったところとその理由をまとめ、紹介することで、言葉には自分の思いを伝える働きがあることを理解している。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、学校図書館などを利用して進んで読書に慣れ親しんでいる。また、登場人物や場面の様子を、挿絵や叙述をもとに想像しながら読んだり、一番心に残った場面を見付け、その理由を説明したりすることができるようになってきた。物語の一部分や挿絵のみの表面的な楽しさで終わらずに、思いを膨らませながら物語全体の楽しさに気付くことができるような読みの力を付けたい。

(3) 指導の手立て

日ごろから絵本の読み聞かせを行い、想像を膨らませる楽しさを実感させてきた。最初は、挿絵を見ながら想像を広げることから始め、少しずつ登場人物の行動など言葉から想像が広げられるようにしてきた。読み聞かせの後には、絵本の一番心に残ったことを中心に、お互いの感想を交流してきた。そのような取り組みによって、文字から様子を想像することが難しい児童も、絵本の世界を楽しむことができるようになってきた。

また日常的にグループ学習を多く取り入れ、友達と考えを交流する機会を多く設定してきた。そのような経験から、自信が持てない児童も自分の考えを発表しやすい雰囲気をつくり、どの児童にも発表の機会が保証できるようにしていく。

2 単元の指導計画

【9時間扱い 本時6 / 9時間】

次	時	○学習活動	教師の評価規準（評価方法） ◇到達が不十分な児童への指導の手立て
一次 (出会い・学習計画)	①	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人が「えほんルーム」を作って絵本を紹介するという単元全体のめあてを設定し、学習の見通しを持つ。 ○「ずうっと、ずっと、大すきだよ」の題名から、どんなお話を考え発表する。 ○並行読書を一冊選んで読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 登場人物の行動を中心に想像を広げ、大好きなところを見付けながら読もうとしている。(発表・観察)
		<ul style="list-style-type: none"> ◎物語を読んで一番好きなところを見付け、「えほんルーム」にまとめて友達に紹介しよう。 	

二次 (教材文の追求)	②	○「ずうっと、ずっと、大好きだよ」の読み聞かせを聞き、粗筋をとらえる。 ○一番心に残ったところに付箋を貼る。 ○一番心に残ったところの挿絵にネームカードを貼り、友達の考えに気付く。	① 挿絵や時間を表す言葉をもとに、順序を考えながら読むことができる。(付箋・ノート・発表) ② 言葉には、気持ちを伝える語など、意味による語句のまとまりがあることに気付いている。(ノート・発表)
	③	○ぼくとエルフと一緒に大きくなっていく場面の様子を想像しながら読む。	① 「エルフはぼくの犬」と話すぼくの気持ちを読み取ることができる。(ノート・発言)
	④	○老いていくエルフと、心配するぼくの様子を想像しながら読む。	① 老いていくエルフに、「ずうっと、大好きだよ。」と言ってあげるぼくの気持ちを読み取ることができる。(ノート・発言)
	⑤	○エルフの死と、その後のぼくの様子を想像しながら読む。	① 「ずうっと、ずっと、大好きだよ。」に込められたぼくの気持ち読み取ることができる。(ノート・発言)
	⑥ 本時	○「ずうっと、ずっと、大好きだよ」の全文を通して心に残ったところを見付け、「大好き」だと思ったところとその理由をまとめる。	① 物語について、自分なりの感想をもつことができる。(えほんルーム・発表) ② 物語の内容や、それに対する自分の思いや考えを文に書いている。(えほんルーム・発表)
	三次 (活用・まとめ)	⑦ ⑧	○並行読書してきた本の中から1冊選び、心に残ったところを見付け、思ったり考えたりしたことを「えほんルーム」にまとめ、友達に紹介する。
⑨		○友達の書いた「えほんルーム」に書かれた内容を読み合い、感想を交流する。	① 友達の「えほんルーム」に興味を持ち、読んでみたい本を考えている。(付箋・発表) ② 友達の「えほんルーム」に書かれた「一番好きなどころとその理由」を読み感想をまとめている。(付箋・発表)
			
<p>◎教科書教材を使って、主人公が動物を愛していることが分かる言葉に焦点を当てて読み進め、主人公に共感を持つことで、並行読書などの本を読むことがより楽しくなった。</p>			

終 末 5 分	7 学習をまとめる。	全体	
	えほんをしょうかいするときは、一ばん大すきなところとそのりゆうをつたえるとよい。		
	8 本時の振り返りをする 9 次時の確認をする		<input type="checkbox"/> 並行読書の「えほんルーム」を作成する見通しを持たせる。

(3) 本時の評価

◇評価規準の具体 (評価方法～絵本ルーム, 発表)

【読むこと】

十分に満足できる (A) : 一番大好きなところとその理由を、自分の経験と結びつけて考え、「その理由は～だからです。自分だったら～です。」などの文でまとめ、グループ交流では、自他の考えを比較しながらよりよい表現を考えようとしている。

おおむね満足できる (B) : 一番大好きなところとその理由を、「その理由は～だからです。」などの文でまとめ、グループ学習では、自分の考えを他者に一生懸命伝えようとしている。

努力を要する児童への指導 : どこが一番好きかを、既習の時間の付箋を頼りに探すように助言する。それから、その理由を、簡単な言葉でまとめさせる。グループ学習では、自分の考えを声の大きさに気をつけて伝えるよう励ます。



4 取り入れたアクティブ・ラーニングの視点と授業改善のポイント

(1) 授業のねらい

【アクティブ化シートB-③ (交流重視)】

～グループ学習による交流の工夫～

本日の授業では交流の工夫として「グループ学習」を取り入れた。どの子にも話し合いを進める力を付けるため、グループのリーダーは日替わりでいつも行っている。グループ学習を取り入れたねらいは、全体ではなかなか発言できない子にも発言の機会を与えるためと、一人学習で考えをまとめられなかった子が、友達の思いや考えを聞いて想像を膨らませるためである。

(2) 成果

- 本授業では、交流を通して自他の相違に気づき、紹介しようとする意欲がみられ、交流は効果的だった。単元の最終ゴールを明確にしたことで、学習意欲の喚起に繋がった。
- 本時では、普段書くことも、発表することも難しい児童がたくさんの量を書き、他の児童からもグループの代表として選ばれていた。交流場面を持つことで、「どんな絵本ルームが、よりよいのか」という選出の基準を、児童にもしっかりもたせることが出来ていた。

(3) 改善

改善ポイント～教師の評価、励ましの言葉

本授業は交流重視の授業であったため、交流場面では児童のさらなる交流を促すための、教師の評価や励ましの言葉があると、より活発な交流が出来たと考えられる。そのことで、児童がより目標を意識した交流を展開することができるであろう。

